

平成 15 年 7 月 23 日 午後 7～9 時

場所：北海道環境サポートセンター

環境プラザ懇談会 会議録

まず、市より環境プラザに関しての報告・説明を行い、その後、意見交換を行った。参加人数は約 50 名（うち市側 7 名）。

1 環境プラザに関する報告事項および説明事項

環境プラザ開設に向けての進捗状況

< オープニングイベントについて >

・ 9 月 1～7 日に以下のオープニングイベントを行う。実行委員会は市民と市で構成されている。

(1) さっぽろ環境情報マップ

(2) 環境プラザ！クイズオリエンテーリング

(3) 環境日替わり講座

また、市が主催する講演会（講師：松本英揮氏）も行う予定である。

< 周知用パンフレットについて >

・ 環境プラザを周知するためのパンフレットを作成・配布している（配布資料 1）。

中央図書館との図書取次ぎに関すること

今年 3 月に環境プラザの管理・運営に関する意見交換会を開催した。その時点では、環境プラザの本を管理する情報センターにおいて、市内の図書館と本のやりとりが可能であるとした。しかし、現状ではそのような体制は困難となっている。今後の課題としたい。

懇談会の開催目的

環境プラザは市民に広く利用されて、生きる場所である。懇談会を通して、環境プラザの運営のあり方を話し合い、市民と市の意識の共有をしたいと考えている。

環境プラザの平成 15 年度の予算と業務について

環境プラザの今年度の業務および予算について報告する（配布資料 2）。予算の決定額は要求額の半分以下であり、特に職員人件費・ホームページ改訂費・外部講師料について十分な予算を得ることができなかった。

今後の環境プラザ運営の考え方（市の案）と市の課題について

市の基本方針は「委託可能な部分は委託する」。環境プラザの運営に関しては、3 年をめどに委託化するという課題がある。そこで、懇談会を通して環境プラザの運営のあり方を整理したい。

15 年度は業務や運営組織等において、市民と市で共通認識を持ちたい。

16 年度は環境プラザの運営方針について合意形成を行いたい。

17 年度はその合意形成をもとに、新たな運営体制の開始に向けての準備を行いたい。

18年度は新たな運営体制を開始したい。

また、運営の委託について、選択肢として考えられる5つの案を提示した（配布資料2）。

2 環境プラザに関する意見交換

市民の意見	市の意見
<p>委託に関して</p> <ul style="list-style-type: none">・3月の意見交換会では、委託化までの目標期限は5年だった。今回の懇談会では3年となっている。その理由は？・どこまでをどう委託するのか？NPOが十分に活躍できるよう、NPOと市が得手不得手を互いに補うべきである。・委託化は経費削減のためではなく、本当に協働を目指す上での計画なのか？・委託にこだわらず、新しい協働の形態も考えるべきである。	<ul style="list-style-type: none">・意見交換会では環境局の考えで5年を目標としたが、委託に関する市の方針に沿って、3年を目処とした。・委託を行うとしても、市としてもわからないことが多い。必要があれば直営という選択肢もありえる。また、委託先をNPOに限っているわけではない。委託先・委託内容を含め、環境プラザの運営のあり方についてこれから話し合っていて決定していきたい。
<p>懇談会に関して</p> <ul style="list-style-type: none">・環境プラザにおける懇談会の位置付けは？・懇談会の今後のスケジュールは？	<ul style="list-style-type: none">・環境プラザの運営に関して意見を交換する会である。しかし、現時点では市が環境プラザを管理しているため、懇談会は意思決定機関とはならない。しかし、できるだけ話し合いの意見を反映するようにしたい。・今年度は月1回のペースで懇談会を開催したい。
<p>環境プラザの機能について</p> <ul style="list-style-type: none">・北海道環境サポートセンターとの違いは？・北海道環境サポートセンターとお互いに協力体制で運営してほしい。	<ul style="list-style-type: none">・環境プラザでは小中学生を対象とした展示物を用意しており、環境教育・環境学習の拠点となるような位置付けを担いたい。・環境サポートセンターと定期的に話し合いの場を持つなどして協力し、相乗効果を持つように機能したい。
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none">・札幌市民以外は環境プラザを利用できないのか？・懇談会の開催について、もっと広くアピールすべきだったのでは？	<ul style="list-style-type: none">・札幌市民以外にも利用できる。・今回の周知には市のホームページと北海道環境サポートセンターのメーリングリストを利用した。市としてもアピールしたかったが、先述の周知方法だけに留まったのが現状である。良い案があればぜひ採用していきたい。

市民の意見	市の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・環境プラザ職員の人選基準は？ ・小中学校にパンフレットを配布する目的は？ ・懇談会の内容をわかりやすくまとめてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター役を適切に務められる人選を行った。 ・子供たちに興味を持ってもらうと同時に、先生方にぜひ環境プラザを活用してほしいと考え、配布した。 ・まとめたものをホームページに掲載する。

平成 15 年 10 月 2 日 午後 7～9 時

場所：札幌市環境プラザ

第 2 回懇談会 会議録

市より以下のテーマに関する報告・説明を行い、随時、意見交換を行った。参加人数は約 26 名。

1 第 1 回懇談会のおさらい

- ・ 7 月 23 日に行われた第 1 回懇談会の内容についておさらいをした（配布資料 1）。
- ・ 北海道環境サポートセンターと環境プラザの機能の違いについて次のように補足した。

北海道環境サポートセンターは市民団体の活動をサポートすることを目的としている。それに対し、環境プラザは市民や子どもたち等の個々人が環境活動を起こせるような拠点となりたい。

2 環境プラザの事業に関する報告および説明事項

オープニングイベントについての報告

- ・ 9 月 1～7 日に以下のオープニングイベントを行った。イベントは市民と市で構成された実行委員会が中心となって運営した。

- (1) さっぽろ環境情報マップ
- (2) 環境プラザ！クイズオリエンテーリング
- (3) 環境日替わり講座

なお、(1)のさっぽろ環境情報マップは、景観プロジェクトという NPO 団体と協力して実施した。

今後の事業

第 1 回環境プラザの運営に関する懇談会の意見交換で、何をどう委託するのかという質問があった。そこで、委託・受託する際の判断材料として、今年度、環境プラザで持つ事業について説明を行った。

(1) 環境総合講座

地球規模から身近な環境問題までをテーマに、様々な講師が講座を開催する事業（配布資料 4）

(2) 環境保全アドバイザー制度

環境に関する各分野の専門家を、市民の観察会・学習会に派遣する制度（配布資料 5）

(3) 環境教育リーダー制度

環境に関する各分野のボランティアの方々を、市民の観察会・学習会に派遣する制度（配布資料 6）

(4) Kids ISO プログラム

小中学生を対象とした省エネ活動のプログラム（配布資料 7）

(5) エコファミリー事業

一般の家庭を対象として省エネナビを貸し出し、省エネ活動を促進させる事業（配布資料 8）

(6) エコライフ WEEK 事業

子どもたちを対象とした環境家計簿で、省エネ活動を促進する事業（配布資料 9）

(7)こどもエコクラブ

子どもたちが主体的に行う環境学習や環境に関する活動を支援する事業（配布資料 10）

3 二酸化炭素排出量の削減に向けたアクションプログラムについて

市長が公約で掲げた「4年間で二酸化炭素排出量の10%削減」に向けて39の施策案を考えており、市全体で環境への負荷の低減に取り組むようなウェーブ（波）を起こしたい。今回、案の一部について説明をした。

さっぼろ ストップ・ザ・温暖化キャンペーン

・キャンペーンの内容

キャッチコピーや市長のアピール等を考えており、各種媒体を用いて広報したい。キャンペーンの具体的な内容については、今後市民と意見を交換しながら決めていきたい。

・web版環境家計簿（目標10万人）

インターネット上で環境家計簿をつけるというもので、キャンペーンのひとつとして考えている。従来の環境家計簿と異なる点は、

- * チェック項目を電気、ガス、水道使用量の3点にしぼっている
- * 面倒な計算等は省略
- * 削減量のランキングがわかる等、楽しめる部分を持たせる

なお、インターネットが利用できない市民も参加できるように配慮したい。

エコドライブ宣言（目標10万人）

アイドリング・ストップ（駐停車の間、無駄につけている車のエンジンを止めること）等、環境にやさしい自動車の使い方であるエコドライブについて、多くの市民に実践を宣言していただく。

エコライフ宣言（目標10万人）

環境にやさしい消費行動（グリーン購入、エコバック使用等）や省エネ行動等を、多くの市民に実践を宣言していただく。

グリーン購入...購入の必要性を十分に考慮し、品質や価格だけでなく環境のことを考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努めている事業者から優先して購入すること（グリーン購入ネットワーク <http://eco.goo.ne.jp/gpn/>）

エコバック使用...買い物等の際に、買い物袋を持参し、環境への負荷を低減する

環境マラソン講座

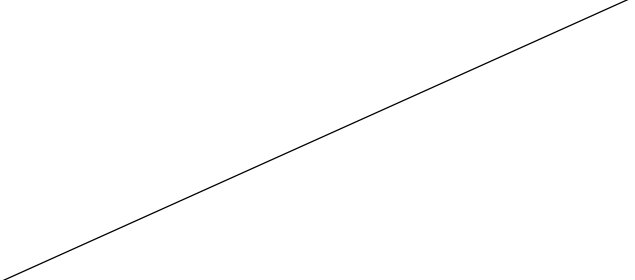
地球環境の現状について、できれば毎日のように講演を行い、市民・事業者に正しい情報を提供する。

市民が温暖化対策に自発的に取り組める行動メニューの提案の公募と、それに対する市民助成制度
市民から環境行動に関するアイデアを募集し、それに対する助成を行う。助成金額等は未定。

2 意見交換

参加者（市民）からの意見	市の意見
<p>環境プラザの運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境プラザの最終的な目標は？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動の輪を広げることが目的である。この意味で、市民がどのように関わり合っていくのが良いのか、もっともふさわしい運営形態についてこの懇談会で一緒に考えていきたい。
<p>懇談会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会は今後どのように進むのか？ ・誰でも懇談会に参加できるという形だと、人が入れ替わる。どう話を積み重ねていくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境プラザ検討会議()」から、運営委員会を設けることが望ましいとの提言をいただいております。懇談会の意見が運営委員会に結びつくようになれば、と考えている。 環境プラザ検討会議...平成12年から14年にかけて、環境プラザの具体的な内容について協議・検討していただいた。 ・メンバーを決める場合、その選択がベストかどうかの問題がある。今は誰でも参加できるという形で進めていきたい。今後懇談会の中で良い方向性が出れば良いと思う。
<p>運営委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会とはどのようなものか？ ・いつ動き出すのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境プラザの運営を担う運営組織である。誰が、いつというような具体的な約束事はない。運営委員会を含めて、懇談会の中で様々な意見が出れば良いと思う。
<p>展示物に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活と環境問題の結びつきが足りないのではないかと。どのような視点で造ったのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示物は、これが答えだからこうしようとはせず、なぜだろう、どうしたらいいだろうと考えさせるコンセプトで造っている。今、この展示物が100%だと思っていない。皆さんの様々な視点から御意見をいただき、よりよいものにしたい。
<p>オープニングイベントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニングイベントを市民と市と一緒にやったことについて、どう評価しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想としては、一緒にやることにより、市民の視点からのアイデアをいただけたという良い点と、スケジュール調整等や、誰がどこからどこまでの責任を持つかという、役割分担について難しい点があったと思っている。

参加者（市民）からの意見	市の意見
<p>環境プラザの事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球の現状，今後予測される危機等，環境に関する情報をもっと流してほしい。 ・環境教育リーダーの制度とはどのようなもので，何を基準にリーダーの人選を行ったのか。また，派遣の際の人選基準は？ 	<p>市の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境プラザ事業の環境総合講座，またプラザ単独の事業ではないが環境マラソン講座（ 1 ）や出前講座（ 2 ）を行うことにより，地球環境について等，情報の発信をしていきたい。 <ul style="list-style-type: none"> 1 環境マラソン講座...地球環境の現状について，高い頻度で（できれば毎日のように）講座を開き，市民・事業者に正しい情報を提供する事業 2 出前講座...市職員が地域に出向き，市の施策や事業についてわかりやすく説明を行う事業 ・環境教育リーダーは学校の教職経験者や独自に自然関係の活動をされている方々で，学校や市民の方々の環境学習をサポートしている。リーダーは公募し，市で用意した研修を受けていただいた後，委嘱した。派遣の際は，依頼内容により市の方で選んで派遣している。
<p>アクションプログラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民が温暖化対策に自発的に取り組める行動メニューの提案の公募と，それに対する市民助成制度」以外に，市民が関われる企画はないのか？ ・web 版環境家計簿は市民の間で広がっていくのだろうか。10%削減した市民や団体名を公表して取り組みを評価してあげるなど，動機付けを強めたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回紹介した企画はあくまで案である。アイデアがあればどんどん出してほしい。企画に反映したい。 ・市民に取り組んでもらうための手段・方法として，キャンペーン等を行うことにより，市全体でウェーブ(波)をつくり，広めたいと考えている。ぜひキャンペーン内容等，広げるためのアイデアを出していただきたい。
<p>懇談会の周知に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページとメーリングリストだけでは，ごく限られた市民にしか伝わらない。新聞社への投げ込み，環境プラザ内や区民センター等にチラシを置くなりして，広く広報してほしい。 ・開催日を毎月第何週の何曜日等に固定してみるのはいかがでしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープニングイベント時に，区役所，区民センター，近隣の小学校等にチラシを配布したが，あまり効果が見られなかった。開催日の工夫も検討するが，懇談会の内容の準備等の理由から，開催日の固定は難しい。次回の開催にあたって，チラシを置く等，できるだけ広報するが，懇談会に参加している市民のネットワーク等を使った協力が必要だと考えている。ぜひ協力していただきたい。

参加者（市民）からの意見	市の意見
<p>要望・提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクションプログラムについて，企画にアイデアを出すという関わり方だけでなく，その根本である施策の決定に関わりたい。 ・懇談会ではできるだけわかりやすい言葉で話してほしい ・次回の懇談会のテーマを，予定で構わないので事前にホームページ等で周知できないか。 ・環境総合講座について，講師はバランスよく，いろいろな方を講師として招いてほしい。 ・展示コーナーでは，子どもたちに「今日は解説員になってみよう」等，楽しさや遊びの要素を取り入れたらいいのではないか。 ・今，環境プラザにあるアンケートに，プラザへの要望や講座に参加してどうだったか等の項目を追加したらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望・提案として参考にさせていただきたい。
<p>その他，参加者から参加者への意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうしてほしいという意見だけでなく，市民の方からもアイデアを出していきませんか。 ・対立からは何も生まれない。プラザの運営を皆で考え，力を合わせていくのがいいのではないか。 	

平成 15 年 11 月 10 日 午後 7～9 時

場所：札幌市環境プラザ

第 3 回懇談会 会議録

市より以下についての報告・説明を行い、随時、意見交換を行った。参加人数は 36 名。

1 これまでの懇談会の経過についてのおさらい

7 月 23 日、10 月 2 日に行われた第 1 回、第 2 回懇談会の内容についておさらい（配布資料 1）、および環境プラザ運営の考え方（案）について、再度説明をした（配布資料 2）。

2 環境プラザ展示物の現在の課題と、それに関する提案（配布資料 3）

(1) 展示物をつくるにあたってのコンセプト

視覚や感情・感性に訴えることで子供たちにもインパクトを与える展示、身近なすぐ理解できるところから入る展示、調べ学習やディスカッションが必要な（答えは用意しない）展示物とした。

(2) 現展示物の課題および意見

環境プラザのオープンから約 2 ヶ月が経過した。その間の来館者の反応や寄せられた意見から、以下の課題があげられる。

来館者が実際に触ったり、感じたり、参加する展示物が少ない。

展示物の内容や説明が不足しているため、何を言いたいのかがわからない（ディスカッションが必要になる、答えを用意しないというコンセプトであるが、来館者に疑問を持たせたり、考えさせるまで至っていない）。

子供がすぐに入っていけるような分かりやすい展示が少ない（展示のコンセプトの違いはあるが、隣接する消費者センターのパソコンによるクイズは、その入り込みやすさと全問正解で証書をもらえるという達成感・征服感もあって子供たちによく利用されている）。

札幌の自然を感じられる展示物が少ない。札幌の自然環境を展示するマップがほしい。

環境保全のために具体的に何を行動したらいいのかがわからない。

(3) 展示物発展のための企画・作成委員会「つくるーん（仮称）」の提案

上記の課題・意見をふまえ、今後環境プラザの展示物をどう発展させるか（どのように展示し、何を伝えるか等）の話し合いや製作などをしていく委員会を設けたいと考えている。ただし、現展示物を大々的に作り直すことはできない。手づくりで展示をつくっていききたい。

とりあえずは、平成 16 年 3 月まで、月 1 回程度の頻度で委員会を開きたいと考えている。

3 意見交換

参加者（市民）からの意見	市の意見
<p>展示に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに小学生，中学生がどのくらい訪れたか。その子供たちは展示物を見て，どんな反応を示したか。 ・ 札幌市の環境を紙ベースのデータではなく，簡単にパソコン等で検索できるようにしたらどうか。 ・ 屋上を使つての展示（コンポストやビオトープ等）はできないか。 ・ 「つくるーん」の予算はどのくらいか。 ・ 元気活動プロポーザル事業（ 1）を活用し，「つくるーん」の予算にあてたらどうか。 1 札幌市市民局で行っている事業。市民の創意工夫を生かしたまちを元気にする活動について企画案を募り，この中から公益性や効果の高い事業を提案した団体とその事業について委託契約を締結して実施する（委託費は 40 万円もしくは 60 万円。事業内容により異なる）。 ・ 「つくるーん」はどのように進めていくのか。人それぞれで参加できる時間帯は異なる。「つくるーん」昼の部・夜の部など分けたらどうか。 ・ 「つくるーん」昼の部・夜の部に分かれる場合，意見を共有したい。取りまとめ役なども必要になると思う。それについても話し合ったらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月 1 日のオープンから 10 月末までに，小学校 3 校，中学校 11 校が総合学習で利用した。環境問題を日常生活と結びつけて説明することで興味を持たせている。しかし，子供たちに体験してもらい，感性に訴えかけるような部分に関しては充分に対応できていない。 ・ 環境プラザのホームページにそういった入力・検索ができるシステムを用意している。しかし，データはまだ揃っていない。 ・ 屋上はエルプラザ全体の所有地であり，市の一存では決められない。どういったことを行うのか，それによる副次的な問題はないかを具体的に考慮し，話し合う必要がある。 ・ もともと予定していた事業ではないので，予算はついていない。 ・ プロポーザル事業を活用した場合，利用を考えている団体等の枠をひとつ奪ってしまうことになる。今回の「つくるーん」は市が提案した事業ということもあり，プロポーザル事業の予算を使用することは適さないと考える。 ・ 参加者にはアイデアを出してもらおうと同時に，具体的に検討し，実現するところまで責任をもって参加してほしい。2 班に分けて進めるかどうかについては，今後「つくるーん」の中で検討したい。まずは一度「つくるーん」の会を開きたいと思う。

参加者（市民）からの意見	市の意見
<p>懇談会開催の周知について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第2回懇談会で指摘されたように、今回の開催にあたってはチラシを各区役所に置くなど、できるだけ広報したが、効果については疑問がある。周知の方法はやはり大きな課題である。参加者の皆様に御協力いただきたい。
<p>懇談会の運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> 懇談会の事務局を市民と協力して行ったらどうか。懇談会の周知に関する苦勞を市と市民で分かち合えるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> それもひとつの方向だと思う。懇談会のリーダーシップを市民が取り、進めていくこともありえる。これについては今後市民が協力していけるのか検討していきたい。
<p>環境プラザの利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事の関係上、平日に展示コーナーを見ることができない。現在の開館時間（9時～17時15分）を変更することはありえるのか。 環境プラザ利用の年齢層およびその人数について教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ニーズとそれにかかる費用の兼ね合いによる。現時点では開館時間の変更は考えていないが、ニーズがあれば検討したい。 参考意見 リサイクルプラザは19時まで開館しているが、18～19時の利用はほとんどない。費用対効果を考える必要があり、現在来館者にアンケートしている。 環境プラザはサタデーテーリング（2）のスタンプポイントになっており、毎土曜日に約100人の子供たちが来館している。平日、総合学習以外での子供の利用はほとんどない。大人は一日に20～30人であり、事業者も来館している。 2 札幌市交通局の実施する小学生向けスタンプラリー
<p>第4回懇談会について</p> <ul style="list-style-type: none"> 次回の懇談会の開催日および話題について。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回は平成16年1月15日(木)に開催する。話題は環境プラザの運営について。実際にNPO等に委託している例を紹介したい。

参加者（市民）からの意見	市の意見
<p>要望・提案</p> <p>展示および「つくるーん」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示コーナーだけがすべてではない。例えば、トイレの便座に使われている暖房など、エルプラザの建物全体で環境について学べるようにすればいいと思う。 ・ 定期的に簡単なツアーのようなものを行ったらどうか。例えばエルプラザ内などで、環境に関する設備を紹介してまわったりする。 ・ ふれあいや子供たちの反応を大事にするために、訪れる子供たちには人が直に説明する等の対応をしてほしい。 ・ どういった展示物がいいのか、子供たちに聞いてみる。または子供たちに「つくるーん」に直接参加してもらうのはどうか。 ・ 子供たちが学校の授業等で作成した発表物をプラザの一角に展示したらどうか。 ・ 子供たちに環境プラザの展示物の解説員になってもらうのはどうか。 ・ 環境活動をしている市民が、それぞれの活動分野に関わる展示物を用いてプレゼンテーションをするのはどうか。 ・ サタデーテーリングの子供を対象に、土曜日に各市民団体が順番にイベントなどを行ったらどうか。 ・ 札幌市における自然の状態を示すパネルや映像があるといいと思う。 ・ 市民積み上げ型の環境情報マップを常設したらどうか。 ・ 札幌市内外の学校で取り組んでいる環境活動の情報を発信したらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ この他にも様々な意見を市民の皆様からいただいております、今後の課題として検討していきたい。また、アイデアとして「つくるーん」の会議の中で参考にさせていただきたい。